

# 平成18年第2回 市長が施政方針を表明

## 市議会定例会

平成18年第2回市議会定例会が開会され、石阪市長は5日の本会議で施政の方針について所信を表明しました。

その中で市長は、市民協働のまち、環境先進都市、子育て・保健福祉のまち、商業・文化芸術都市を目指すための施策や行政経営改革に全力を傾注して取り組んでいく決意を表明しました。

ここにその全文を紹介します。

ここに議長のお許しをいただき、2006年第2回市議会定例会の開会に当たり、施政の方針について申し上げます。

私は、先の3月議会において、当面の施政の方針を申し述べたところであり、改めて、ここに負託を受けた4年間について、私の市長としての理念、目指す都市像、並びに市政運営の基本的な方針を申し上げます。

町田市は、歴史と先進都市の伝統として進取の精神にあふれるまちであります。市内には、武蔵の国府・府中と鎌倉を結ぶ鎌倉街道が走り、生糸の生産地と横浜を結ぶ街道・絹の道が通っています。絹の道は、横浜から最新の海外の文化や物産等を運んでくれる貴重なルートでもありました。また、明治10年代の自由民権運動の先駆けとなった先人たちの活躍は、自治の風土づくりの端緒となつたといいても過言ではありません。

二承知のとおり町田市は、1958年(昭和33年)2月1日、1町3村が対等合併して、東京都で9番目の市として誕生しました。誕生時6万人余であった人口は、東京圏の膨張の影響を受け、急速に増加してまいりました。乱開発から緑を守り人口増加を抑制した「団地白書」や「宅地開

後には、首都圏では4人に1人が65歳以上という時代になると予測されています。

しかし、「高齢化すると社会の活力がなくなる」などと考える必要はなく、活力ある社会の担い手として多くの役割が高齢者に期待されていると考えます。政策の理念として、まず、そのことを押さえておきたいと思えます。

次に、今後の日本の社会の基本潮流は、ヨーロッパが既に経験している、定常的な社会、全体として持続可能な社会の仕組みを作っていく、そういう時代になっていきます。企業は、その成長よりも収益を、被用者は、雇用を給与の増大よりも重視する、市民は、生活の質と生きがいとを重要と考える、そうした時代になっていきます。

機会の均等や再挑戦の仕組みと、セーフティネットはバランス良く機能することが肝要です。しかし、雇用については、非正規雇用が3分の1を占め、給与水準は男性で正規雇用の3分の2以下という就労形態が変わってまいりました。さらには、勝ち組・負け組といわれる社会現象がたいへん憂慮されることとなります。

国と地方の関係も、地方分権一括法を経て、三位一体の改革により、新しい時代に入りつつあります。しかし、今回のいわゆる三位一体の改革は、国と地方の役割についての論議が不足しています。しかも、地方の自由度を高めるために必要な税源移譲は少なく、国の権限の温存、補助金の交付金化など、地方にとっては、国の財政再建優先との感が否めません。ナショナルミニマムである生活保護制度の負担金に関する国と地方の

攻防は、結果として国は要求を取り下げましたが、まさにそれを物語っています。しかし、児童手当の国負担率の削減に伴い、地方は負担増を強いられることとなりました。

加えて、生活保護制度について今後について協議の場を設定されるなど、地方分権の見地からも首を傾げざるを得ない状況も見られます。

生活者を核とした地域行政は、住民にもっとも身近な基礎自治体が担い、基礎自治体のみでは解決できない課題は広域行政が担うという、補完性の原則に基づく本来の分権の仕組みの確立が必要と考えます。

当然、地方は自立を、住民に身近な自治体として、責任を持たなければなりません。そして、特色や個性を生かしたまちづくりを進め、まちの魅力や競争力を高め、人々の生活をより向上させていくこととなります。

いつまでもなく、これからはこれまでのような成長や拡大は望めません。多様化する需要に行政だけに対応していくことは困難であります。そこで、市民、事業者、行政が協働し、それぞれの役割に応じ、限りある資源を有効に活用して、まちづくりを進めていくことが求められます。

まさに、より「自律と自立が求められる時代」である、というのが私の時代認識であります。

以上、今日の時代、これからの時代をどうとらえるかについて、私の考えの一端を申し上げます。私の考えの一端を申し上げます。

ここで、市政を担当するに当たって、私の基本的な思い、理念を申し上げます。

2004年3月、町田市は基本構想を改定しました。その中で謳われている理念、都市像に共通しているものは「人と地域」です。

市政の主体は、まさに人と地域であり、社会の活力の源は、人と地域であります。

この基本構想を受けて、私の思い描いている「このまち」のあり方は、「市民すべてが希望の持てるまち」です。

私は、町田市において、生活を営む人、事業を営む人、学ぶ人すべてが、希望の持てるまち、希望の持てる社会、の実現を目指してまいります。

政治、行政の役割は、主体である市民や地域の力を信じ、その活力を高めることであり、そのことにより市民一人ひとりが、自分の住んでいるまちに、地域に、誇りを持ち、希望の持てるまちをつくることであると考えます。

少し具体的に、私の考えるこの町の町の都市としてのあるべき姿を申し上げます。

町田市の特長は、多様な人材の蓄積であります。これからは町田に住み続けたい、町田で働きたいと望むすべての市民に対し、そして、これから町田で暮らしたいという将来の市民に対して、都市生活の質をいかに高めるかを基調として、次の4つの都市像をビジョンとしてお示しします。

### 第1は、市民協働のまちの創造です。

成長に伴い町田市には、多様な豊富な人材の流入と蓄積がなされています。その結果、市民活動が発展し、市民と共に歩むまちづくりが行われ、それが、町田市における市民と行政が共に地域を支える風土を育んできました。これは基本的に今も同じであります。

少子高齢化などにより、「コミュニティ」が急速に変わってきています。そのような中、多くの市民に

は、安全、防犯、子育て、教育、健康、高齢者介護など、様々な不安があります。市民の生命と財産を守ることは行政の最大の使命であり、警察、消防をはじめ関係機関との連携を強化すると共に、市民と一体になった取り組みをさらに進めていきます。安全では災害対策として特に地震への取り組みが求められています。防災センター機能を有する新庁舎は、分散している行政機能を集約し、また災害に備える拠点としてだけではなく、市民と行政との「協働」のシンボルとしても計画を進めてまいります。

これからは住み続けたいと思う地域社会が、安定した市民生活の基本であります。子どもや高齢者など自立が難しい場合には、地域と市民が知恵を出し合い、お互いが補い支援する仕組みも必要です。

自治の基本である「団体自治」と「住民自治」は、市民協働のまちの考え方と相通するものがあります。「自治基本条例のあり方」の答申を受け、このまちの自治の仕組みづくりに向けて取り組んでいきます。

これまで育んできた風土を基に、さらに市民協働の充実、発展を図ってまいります。

### 第2は、環境先進都市の創造です。

町田市には、多摩丘陵の一角を形成する北部丘陵地域をはじめ多くの自然が残っています。北部丘陵地域は、多摩ニュータウンと町田市の既成市街地との間に位置する約970haの広大な丘陵地であり、首都圏では非常に貴重な緑です。この自然を次の世代に引き継ぐことが私たちに課せられた使命であります。

北部丘陵地域の中にある小野路西部地域と小山田地域は合わせて

約380ha。この地域は、都市基盤整備公団による土地区画整理事業でのまちづくりが中止となりました。そこで、この貴重な丘陵地を有効に活用するため、「農とみどりのふるさとづくり」をテーマに、農の活性化、緑の保全などを図り、緑と調和の取れた環境を次世代に繋げていきます。

また、ごみ問題も、より良い環境を次世代に引き継ぐためにたいへん重要な課題であります。ごみは、人が生活することで発生します。しかし、ごみは資源化することでごみではなくります。我々の生活に大きな利便を与えてくれるプラスチックの処理問題を含め、究極の目標である「ごみゼロ」を目指し、市民の主体的な参加を得て、生活者の知恵を集め、これまでの資源化に加えて生ごみの堆肥化への取り組みなどを、市民と一丸となって進めてまいります。

自治の基本である「団体自治」と「住民自治」は、市民協働のまちの考え方と相通するものがあります。「自治基本条例のあり方」の答申を受け、このまちの自治の仕組みづくりに向けて取り組んでいきます。

### 第3は、子育て・保健福祉のまちの創造です。

子どもが健やかに育ち、子育てが楽しくできるまちは、人もまちも輝き、希望があふれるまちです。『保育所持機児ゼロ』を目指し、保育施設の整備を含め多様な取り組みを進めます。また、これからの教育においては、子どもたちの個性を一層伸ばさせることが重要です。例えば、日々の授業の改善や特別支援教育を推進します。一方で、小中学校一貫カリキュラムの作成など、これからの教育のあり方を視野に入れた教育を展開してまいります。

健康の三大要素は、栄養、休養、運動といわれます。高齢者をはじめそれぞれの方たちの健康体力の維持を図る施策に取り組んでいきます。医療水準の向上を図ることと求められています。保健医療計画の改定はその点を視野に進

めており、また、市民病院の充実と経営改革を図ってまいります。保健福祉は、住民にもっとも身近な分野です。従って、適切なサービスを保障するための評価や支援の仕組みをもっと強化することが必要と考えられています。

住み慣れたまちで暮らし続けることは、だれもが願うところです。高齢者や障がい者をはじめ、いろいろな人が地域で活躍できるまち、そして、いざという時に安心のできるまちを目指します。

### 第4は、商業・文化芸術都市の創造です。

絹の道が運んできた新しい文化や物産は、現在の原町田を中心とする商業を発展させました。この地域の商業売り上げは新宿、池袋などに次いで東京都で8番目、多摩地区では最高です。しかし、市全体を見渡しますと、商業、農業、工業が必ずしも活性化しているとはいえません。そこで、市民、事業者、行政などの横断的な討議の場を通して、産業の振興に向け、その基本となるものを作つてまいります。

「町田に行ってみよう」、「町田で楽しい時間を過ごしたい」と思っていたために、行政はもちろんです。市民の皆様も様々な場面において情報を発信していただけたらと思います。そのためにも、町田の魅力や、さらにつくり育てることが必要です。

スポーツや文化、芸術は、人々の暮らしに潤いを与えてくれます。幸い、わが市には豊富な人材があり、各界で活躍されています。これらのスポーツ、文化、芸術の活動を支える場づくり、施設づくりの構想を進めます。これからは町田市の認知度を高め、他都市に誇ることのできる施策に取り組んでいきます。

(3面に続く)